



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 31号

## 小学校の海苔つけ体験授業



かつて海苔生産が行われていた地域では、海苔つけの体験授業をしている学校があります。その中から、10年以上活動を続けている大森の4校を紹介します。それぞれの地元の元生産者が、道具の準備や海苔の用意をし、当日も熱心に指導してくれます。地域と学校の強い信頼関係が、子どもたちのいきた学びを長く支えています。



### ●大森第一小学校●

開校138周年、大森地区で最も歴史があり、海苔生産と共に歩んできた学校です。大正時代は、海苔漁家の子どものために早朝授業の朝学を行っていました。

海苔つけは、3年から6年まで300人以上の児童が体験する一大イベントです。10名以上の元生産者が、朝学の歌を歌い、体験の指導をしてくれます。

校舎入口の海苔資料室には、博物館顔負けの道具が揃っていて、児童が実物を見て学べる環境が整っています。

### ●大森第四小学校●

大森第一小学校から学区が分かれた学校で、来年開校80周年を迎えます。旧呑川の下流に位置し、海苔生産が栄えた地域です。

体験授業は約15年前から行っています。かつて実際に使っていた、先祖代々の思いのこもった道具を使っています。また、海苔簀は昔と同じヨシでできた海苔簀です。

昔のままのボータを着て指導してくれる方もいて、雰囲気の伝わる体験授業です。



### ●中富小学校●

大森第四小学校から学区が分かれ、開校61周年を迎えました。

体験授業を始めたのは4校の中で最も早く、今

年で22年目です。毎年、全校児童が体験するので、上級生は慣れた手つきでできます。上級生が下級生の面倒を見るので、上級生は自覚が育っているようです。また、近隣の幼稚園・保育園も参加し、地域の方々にも参加を呼び掛けるなど、小人数の特性を活かした活動となっています。

また、校内に海苔資料室があり、児童の学習と体験の両方に活かされています。



### ●大森東小学校●

工場の撤退に伴う新たな町づくりとして開校し、今年開校31周年を迎えました。

かつては、海苔生産者と貝漁師が多く住む地域で、周辺の内川と都堀は漁船やベカブネの河岸でした。

以前は他から道具を借りていましたが、最近、新たに道具を揃え、自前の道具で体験できるようになりました。元生産者が、当時の船の幟旗をあげ、ボータ姿で指導してくれるので、雰囲気も満点です。

(麻)

学校の先生へ

ふるさと館では、学校で行う海苔つけ体験にあわせて海苔網を持参し、学習に活かしていただいています。

また、毎月2校程度、ふるさと館で体験授業の受け入れをしています。学校へ海苔つけ台などの道具の貸し出しもしています。いずれも、体験は冬期期間のみで、4月から先着で新年度の体験を受付けます。

平成24年度

# アサクサノリ生育観察事業をふりかえって

6年目となった今年度の事業の一番の成果は、昨年度、一昨年度に引き続き竹ヒビに付いた多くの“アサクサノリ”を確認できたことです。

竹ヒビを建てるために夏から事前準備を行いました。それは竹ヒビの材料となる竹本来の持つ油分を取り除き、海苔の付きを良くするためのアク抜き作業です。この作業は大森ふるさとの浜辺公園内の浜辺エリアから竹ヒビを海中に沈めておきます。約一ヶ月後、竹ヒビを海中から取り出しヌタと呼ばれる竹に付着したドロや汚れを海水で洗い流します。その後、竹ヒビをつくるヒビごさえ作業を行ないました。

さらに「大森 海苔のふるさと館」では昨年引き続き、海苔の種である胞子を作る糸状体をカキガラで培養する作業にも挑戦しました。海から汲んで来たそのままの海水には多くの塩素成分や他の藻類、菌類等も含まれているため、朝晩、欠かさず水槽内の海水温度の管理を行い、塩素成分や他の藻類、菌類を限りなく除去するための海水づくりにも取り組みました。糸状体を培養することの難しさを学びました。



昔ながらの竹ヒビ建て作業の様子

秋には、生産当時、竹ヒビを建てる為に使っていた振り棒と呼ばれる道具を実際に使い、浜辺近くの海に竹ヒビを建て、その枝にカキガラの入った袋を結び、海底に沈める海苔の種付け作業も行ないました。今年は大田区北糞谷にある東京バイオテクノロジー専門学校の学生と先生が見学し、浜辺で振り棒の体験も行ないました。むかしの海苔養殖作業を間



ウエダーに着替え、冷たい海で竹ヒビについたアサクサノリの観察を行う。

→海苔網に付着したアサクサノリ



←竹ヒビに付着したアサクサノリ

近で見て、体験できる大変貴重な機会となりました。

その二ヶ月後、浜辺に建てている竹ヒビに海苔が生長していることを確認しました。これは昨年、一昨年に引き続き三度目の大きな成果です。大森 海苔のふるさと館の1階体験学習室の水槽では多くのみなさんがアサクサノリを間近で観察できるように12月中まで展示しました。

一方、海苔網での生育状況は昨年、一昨年と海苔が採れなかった原因のひとつとされている海面近くの塩分濃度の薄さを考慮し、塩分の濃い層まで少し下げて海苔網を張りました。すると海苔が生育することが確認でき、収穫に至りました。ただ残念なことに、初年度のような良好な生育が見られませんでした。

実行委員会のメンバーの多くはむかし、実際に活躍していた元海苔生産者です。半世紀も経とうとしている今日に、元海苔生産者の作業の一つひとつを目の当たりにできることは大変喜ばしい限りです。

是非、「大森 海苔のふるさと館」を情報発信の場として活用し、もっと多くの方々に海苔や海の環境について広く知っていただければと考えています。

(高橋)



観察時に砂浜に近寄って来たアカエイ

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」31号

平成25年3月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347